

平成16年10月5日

報道機関 各位

情報化推進部情報企画課長
河野 登

広島大学シンポジウム 「学会出版と学術コミュニケーション活動の変革 ～SPARC/JAPANを事例として～」の開催につ いて

広島大学図書館は、この度、国立情報学研究所及び国立大学図書館協会国際学術コミュニケーション委員会との共催により、標記シンポジウムを下記のとおり開催いたしますのでお知らせいたします。

記

日時 平成16年10月15日(金)13:30～17:00

場所 広島大学中央図書館ライブラリーホール(東広島キャンパス)

- 挨拶 吉里勝利 広島大学理事・副学長(研究・国際担当)、図書館長
- 基調講演 「国際学術情報流通基盤整備事業の今日的展開」(仮題)
大場高志 国立情報学研究所開発・事業部コンテンツ課長
- 講演 ・「学術コミュニケーションの主導性を教員の手に」(仮題)
木村 優 富山大学附属図書館情報サービス課長
・「学会系UniBio Pressの創立とその課題」(仮題)
永井裕子 日本動物学会事務局長
・「電子ジャーナルタスクフォースの活動と課題」(仮題)
北村明久 名古屋大学附属図書館情報管理課長
- パネルディスカッション
道端 齋 広島大学大学院理学研究科教授(総合司会)
各講演講師(パネラー)

シンポジウムの趣旨及びSPARCについて

電子ジャーナルに象徴される学術情報をめぐる動きについては、ここ数年の間に大きな変革が生じています。雑誌の価格高騰、出版社の合併、それに対応するコンソーシアムの形成、機関リポジトリ構想等。こうした状況は、学術情報の生産者である教員・研究者、学協会や学術情報流通基盤としての図書館等に大きな影響を与えています。本シンポジウムでは、こうした国内外の状況を確認しつつ、将来における学術コミュニケーションのあり方について、関係する方々と問題解決に向けて考え協議するために開催いたします。

SPARC(Scholarly Publishing and Academic Resources Coalition)は、大手商業出版社による学術情報流通の寡占化、価格高騰が進む状況の中、1998年に北米研究図書館協会(ARL: Association of Research Libraries)が、高額雑誌に対抗できる学術雑誌の出版を支援する目的で発足したプログラムで、学術情報の流通を研究者自身に取り戻すための活動を行っています。日本では国立情報学研究所が「国際学術情報流通基盤整備事業」(通称SPARC/JAPAN)として、この活動を推進しています。

【問い合わせ先】

広島大学図書館部学術情報マネジメントグループ
学術情報マネジメント課長 末次美知夫
TEL:082-424-6201

[発信枚数;A4版 1枚(本票含む)]